

令和2年6月1日月曜日 第10131号

目次

- ◎出光興産、再エネ一〇〇%の電気、上智学院に供給……………二
- ◎ユニチカ、長期ビジョンと新中計策定、「三つのG」注力……………三
- ◎ダウ、ミシガン州の水害復興に向けて百万ドルを提供……………三
- ◎BASFの一―三ヶ月、コロナ禍でも強み発現し増収減益に……………四
- ◎プラエ連三月実績、原材料生産は大幅減、製品も低調継続……………四
- ◎三井化学、齒科材で松風など三社の業務・資本提携を強化……………五
- ◎三菱ケミカルホールディングス・役員人事(六月十六日/他)……………六
- ◎東ソー・人事③(六月二十五日/他)……………六
- ◎プライムポリマー・役員人事(六月三十日)……………六
- ◎タイ、二〇一九年十一月主要化学品輸出入バランス(表)……………七
- ◎財務省、二〇二〇年四月主要化学品輸出入バランス(表)……………八

☆リケンテクノス、中計進捗、生産性向上など進展 サステナブル貢献と、グローバル経営の深化図る

リケンテクノスは、このほど、動画配信による二〇二〇年三
月期の決算説明に併せ、三カ年中期経営計画「More Va
lue to All 2021」(二〇一九―二〇二一年度)の進
捗を報告した。同社は昨年、新たな組織と事業セグメントの
下で新中計をスタートさせた。製品別の「コンパウンド」「フ
イルム」「食品包材」から、市場別の「トランスポートシ
ョン」「デイリーライフ&ヘルスケア」「エレクトロニクス」
「ビルディング&コンストラクション」に変更。激変する市
場ニーズを的確に捉え、グローバルマーケットに対応してい
くのが狙いだ。昨年度の連結業績は増収減益。売上高は、国
内の生活資材・食品包材市場での拡販や、建築資材市場を担
うデザイン企画子会社アイエムアイ(IMI)の売上増が寄
与し、前年に続き過去最高を更新した。一方、営業利益面で
は、生産性向上などによる増収要因はあったものの、設備投
資の負担増、アジア自動車市場やインドネシア電力ケーブル
の需要低迷などが響いた。海外売上高比率は、国内販売の伸
長とアジアの伸び悩みにより、四二・九%と二・一ポイント
減少した。これらを背景に、常盤和明社長は中計の五つの主
要課題の進捗を説明。①「グローバル経営の深化とシナジー」
について、『一年目は、新セグメントでのグローバル経営を
徹底するとともに、アジア地域でのコンパウンド事業に注力
した』と述べた。今年度は、より一層のグローバル経営を推
進し、アジアでのコンパウンド事業戦略をさらに強化してい

☆出光興産、再エネ一〇〇%の電気、上智学院に供給
出光興産はこのほど、一〇〇%子会社である出光グリーンパワーが、上智学院・四谷キャンパス（ソフィアタワーを含む）に、再生可能エネルギー一〇〇%の電力プラン『プレミアムゼロプラン』の供給を六月一日から開始する、と発表した。今回、同学院が導入する『プレミアムゼロプラン』は、再生可能エネルギー（FIT電気を含む）一〇〇%の電源構成に、トラッキング付非化石証書を組み合わせること、供給する電力のCO2排出量が実質ゼロとなるプラン。これにより、同学院四谷キャンパスで使用する年間約二千万Whの電気が再生可能エネルギー由来となり、約九千三百tのCO2削減に貢献する。なお、同プランは再生可能エネルギー一〇〇%の電力使用を目標とする「RE100」加盟企業も利用できる。出光グリーンパワーは、出光グループで風力・地熱・バイオマス・太陽光・水力といった多種多様な再生可能エネルギー電源を保有する強みを生かし、再生可能エネルギー由来の電力を、環境に積極的に取り組み企業や団体へ供給している。また、東京都がCO2排出量削減を目標に実施している「東京都キャップ&トレード制度」の低炭素電力の供給事業者に六年連続で認定されている。同社グループは、今後も、再生可能エネルギーのさらなる普及・拡大に取り組む考えだ。

☆ユニチカ、長期ビジョンと新中計策定、「三つのG」注力
ユニチカはこのほど、二〇三〇年近傍を見据え、長期ビジョン『G・STEP30（ジーステップ・サートイ）』と、三カ年の新中期経営計画『G・STEP30 1st（ジーステップ・サートイ）』を策定した。長期ビジョン『G・STEP30 1st』は、前中期経営計画で掲げた「三つのG・Growth（事業成長戦略の推進）、Global（グローバル事業展開の強化・推進）、Governance（グループガバナンスの強化）」を継続的なテーマとして、長期展望に立ちステッスを踏みながら実現していく。数値目標として二〇三〇年度に売上高二千億円、営業利益二百億円（利益率一〇％）、海外売上高比率三五％などを目指す。一方、新中計「G・STEP30 1st」（二〇二〇～二〇二二年度）は、長期ビジョンのスタートとして位置づけた。経営基盤の強化に向けて「三つのG」をさらに進めるとともに持続可能な社会の実現に向けた活動も継続していく。骨子として、強固な事業ポートフォリオの構築、グローバル事業展開の推進、社内風土・意識改革を掲げている。また、セグメント別の主要施策として、①高分子セグメントでは、フィルムは包装用途・工業用途向けとも高付加価値品の拡販を行い、また海外向けバリアフィルムの拡販に努める。樹脂は用途拡大や、海外展開強化による独自素材（Uポリマー、環境配慮型素材など）の拡販を図る。②機能資材セグメントでは、活性炭繊維は各種浄化用フィルターの高性能化・新商品開発・国内外での拡販、ガラス繊維はICクロス市場のニーズの高度化に対応した高付加価値品の拡販、ガラスビーズは高付加価値品の開発・拡販、不織布では新規用途展開やグローバル販売網の強化による欧米・アジアへの拡販、産業繊維はポリマー・紡糸技術の組み合わせによる高付加価値品の拡販に注力する。③繊維セグメントでは、衣料繊維はエコ、環境配慮型素材の商品開発・拡販を行う。新中計の数値目標は、二〇二二年度に売上高一千四百七十億円、営業利益百十億円（利益率七・五％）、海外売上高比率二八％を目指す。また三年間累計の設備投資は二百三十四億円（前中計比一三％増）、減価償却費百八十二億円（同二〇％増）、研究開発費百十一億円（同七％増）となっている。

☆ダウ、ミシガン州の水害復興に向けて百万ドルを提供
ダウはこのほど、本社所在地である米国ミシガン州ミッドランド地域で発生した豪雨やダム決壊による大規模水害からの復興を支援するため、ダウ・カンパニー基金と共に、百万ドルの支援金を提供すると発表した。支援金は、水害関連の緊急支援や長期的復興のために役立てられる。ダウのジム・フィッツタリング会長兼CEOは、『ミシガン州のグレートレイクスベイ地域は、百二十年以上にわたるダウの故郷であり、記録的水害からの地域復興や、従業員の支援に向けて、当社は断固とした決意を持って取り組んでいる。従業員やその家族、地域社会の安全は、私たちの一番の優先事項であり、より力強い未来そして復興のために、私たちの同僚や官民パートナーと共に協力していく』と述べている。同社は地域パートナーと

共に被災者に向けた緊急支援として、①ミッドランド地域コミュニティ基金内のダウ従業員支援ファンドへ二十五万ドルを寄付し、水害により直接的な被害を受けた従業員を支援、②ユナイテッドウェイのミッドランド郡事務所によるライズトゥギャザーファンドへ二十五万ドルを寄付し、支援を必要とする数千の家族を支援、③復興段階での支援のため、五十万ドルを寄付している。

☆BASFの1～3月期、コロナ禍でも強み発現し増収減益を公表した。売上高は前年同期比七%増の百六十八億ユーロ、特別項目控除前営業利益は同六%減の十六億ユーロだった。今回のコロナウイルス感染拡大で困難な市場環境下にあるものの、多様なポートフォリオがセグメント別で見ると、ケミカル事業セグメントとマテリアル事業セグメントとプロピレンの営業利益は同三九%減の三億八千三百ユーロ。エチレンとポリアミド前駆体の粗利が減少した。パフオーマンスマテリアルズ事業で大幅な増益となったが、モノマリー事業の減益を相殺するには至らなかった。インダストリアル・ソリユーション事業セグメントの営業利益は同三%増の二億七千三百ユーロ。デイスパージョン&ピグメント事業が固定費の減少などで大幅増益となり、製紙用薬品、水処理剤事業をSolenisグループに譲渡したパフオーマンズケミカルズ事業の減益を相殺した。サーフエステクノロジー事業セグメントの営業利益は同四六%増の二億二千万ユーロ。触媒事業は貴金属取引の評価替えにより大幅な増益。コーティングス事業は自動車業界の需要低下により大幅な減益となったが、原材料価格の低下や固定費の減少により一部相殺した。ニュートリション&ヘルス事業セグメントの営業利益は、主に二億五千四百ユーロ。ヘルス事業の大幅な増収により、同一四%増の二億五千万ユーロ。コロナ危機の中で需要が増加している顧客産業に、より多くの製品を提供することに対応できた。ケア・ケミカルズ事業は固定費の減少により利益が微増した。アグロソリューション事業セグメントの営業利益は、主に新型コロナの感染拡大に伴う早期の需要による増収と固定費の減少により、同九%増の八億九百万ユーロだった。なお、二月に発表した今年度の売上高・利益の予測は、未達の見通しとなったため撤回。現時点では、拡大範囲、封じ込めの対策などを確実に予測するのは不可能であるため、確実な予想ができるようになつた時点で、売上高・利益の今後の推移予測を数値化する予定だ。

☆プラ工連三月実績、原材料生産は大幅減、製品も低調継続。日本プラスチック工業連盟がこのほど発表したプラスチック原料の生産は、輸出入状況によると、確認となる二月のプラスチック原料の生産は、前年同月比三%増の八十六万六千tと八カ月ぶりに前年水準を上回った。しかし、三月の速報では同一二%減で推移。主要品目のポリエチレンやポリプロピレン、塩化ビニル樹脂が

マイナスに転じ、ポリスチレンは四ヵ月連続のマイナスとなったことから、生産が大幅に減少した。二月のプラスチック製品生産は、同二%減の四十五万九千tと七ヵ月連続で減少し、三月の速報でも同二%減で推移している。三月は主要品目のフィルム・シートが十ヵ月連続でマイナスとなったのをはじめ、続く機械器具部品や容器（中空成形）なども低調で、パイプ、容器（中空成形以外）のほかも前年並み、もしくは前年を上回っている。一方、三月のプラスチック原材料輸出は、二ヵ月連続のマイナスだった。熱硬化性樹脂の数量は四万t（同三%増）、金額は二百三億五千万円（同一%減）。熱可塑性樹脂は三十三万五千t（同二%減）、七百八十八億二千万円（同六%減）。原材料合計では三十九万二千t（同一%減）、一千百十六億八千万円（同五%減）となった。主要品目では、塩化ビニル重合体とスチレン重合体はプラスで推移したもの、エチレン重合体、プロピレン重合体、アクリル重合体はマイナスだった。三月の原材料輸入は六ヵ月連続で減少した。熱硬化性樹脂は一万五千t（同一四%減）、五十二億円（同二〇%減）。熱可塑性樹脂は二十三万t（同一〇%減）、四百十七億二千万円（同二一%減）。原材料合計では二十五万六千t（同一〇%減）、五百五十六億八千万円（同一八%減）となった。最大輸入品目のポリエチレンテレフタレート（ポリ乳酸とその他ポリエステル（不飽和以外）を含む）は六ヵ月連続で減少した。三月のプラスチック製品輸出は八ヵ月連続の減少で、七万t（同五%減）、一千二百五十一億円（同一%増）。製品輸入は二ヵ月連続のマイナスで、十七万七千t（同二%減）、八百五十六億六千万円（同五%減）だった。

☆三井化学、歯科材で松風など三社の業務・資本提携を強化
三井化学と子会社のサンメディカル、松風の三社は、歯科材料事業に関するさらなる業務・資本提携の強化に合意し、十四日に資本業務提携契約を締結した。三社は二〇〇九年五月に、同事業の業務・資本提携を行い、事業力強化に向けた連携を図ってきた。今回の提携強化により、各社が持つ得意分野を最大限に生かすことで、歯科材料分野の研究開発、販売・マーケティング、生産機能をより強固なものとしていく。歯科材料市場での存在感を高め、企業価値の向上に取り組んでいく。松風は、高い研究開発力と充実した販売網を持つ歯科材料・機器の総合メーカー。世界の歯科市場で存在感を高め、「創造的な企業活動を通じて世界の歯科医療に貢献する」という経営理念の実現に向けて取り組んでいる。一方、三井化学は、素材メーカーとして材料分野の研究開発力を強みに、子会社のサンメディカルや独クルツァーなどを通じて歯科材料事業をグローバルに展開する。現時点で三社が想定している業務提携は、①製品の分野の技術を生かした新製品開発の促進②製品の活用による製品ラインアップの拡充③国内外販売ネットワークの活用による製品間の追求④生産機能の補完・共有などの検討の実施。また、松風間のグローバルでの歯科材料事業のさらなる提携強化、松風と三井化学両社の

「三菱ケミカルホールディングス・役員人事」(六月十六日)▽地球快速化インステイトテュート監査役、取締役生命科学インステイト監査役小林茂▽解兼地球快速化インステイト監査役、同三菱ケミカル監査役浦田尚男(六月十八日)▽生命科学インステイトテュート監査役、顧問社長付片山博史▽解兼生命科学インステイトテュート監査役、取締役地球快速化インステイト監査役小林茂(六月二十二日)▽三菱ケミカル監査役、取締役地球快速化インステイトテュート監査役小林茂▽解兼三菱ケミカル監査役、取締役浦田尚男(六月二十四日)▽取締役、生命科学インステイト監査役片山博史▽同(社外取締役)山田辰己▽退任(取締役)、顧問浦田尚男▽同(同)伊藤大儀。

「東ソー」人事③（六月二十五日）▽南陽事業所総務部長谷真人
▽同事業所設備管理部長兼設備管理センター（南陽）鬼村武文▽同
事業所化成品製造部長柿本眞司▽四日市事業所設備管理部長兼設備
管理センター（四日市）河戸文利▽同事業所ソーダ・塩ビ製造部長
山口博史▽同事業所機能材料製造部長後藤大▽ウレタン研究所長宮
田寛▽有機材料研究所長木曾浩之▽山口営業所所長田賢信▽富山事
務所所長兼東ソー・セラミックス渡邊正広▽解兼大阪支店長、同支店
仁科明久▽出向ロンシル工業石澤英夫▽同太平洋化学製品山本敏裕
▽同東ソー・ニッケミ中村浩明▽同東ソー・ハイテック大深哲也▽
同東ソー・ゼオラム原田敦▽南陽事業所総務部総務課長三原久則▽
同事業所環境保安・品質保証部環境管理課長西俊明▽同事業所設備
管理部工務第一課長市川哲也▽同事業所同部電気課長尾崎哲哉▽同
事業所同部計装課長橋本毅▽同事業所セメント・エネルギー製造部
動力課長石賀裕輔▽四日市事業所総務部勤労課長入江信生▽同事業
所設備管理部工務課長齊藤智晴▽同事業所エチレン・エネルギー製
造部エチレン課長向井康博▽同事業所同部芳族課長湯淺雅哉▽同
事業所同部動力課長山口利昭▽出向大洋塩ビ兼同事業所塩ビポリマ
ー製造部塩ビポリマー課長岡田英之▽生産技術部宮本眞裕▽四日市
事業所事業所所長室岡留浩司▽出向東北電機鉄工重國知之▽同参共化
成工業小村実▽同東ソー・ファインケム持永忠（六月二十六日）▽
取締役（社外）、EY新日本有限責任監査法人シニアパートナー日
高真理子。

「プライムポリマー・役員人事」（六月三十日）▽退任（代表取締役副社長）河田礼二▽代表取締役副社長後藤浩樹▽退任（監査役）福田康人▽監査役平野亮。

タイの2019年11月の主要化学品輸出入バランス

（▲は入超、数量 t）

品 目	輸 出	輸 入	バランス	品 目	輸 出	輸 入	バランス
エ チ レ ン	11,860	—	11,860	A N	8,992	12	8,980
プ ロ ピ レ ン	14,017	16,811	▲ 2,794	L D P E	92,957	20,842	72,115
ブ タ ジ エ ン	2	—	2	H D P E	100,286	12,638	87,648
シ ク ロ ヘ キ サ ン	—	15	▲ 15	E V A	9,326	2,441	6,885
ベ ン ゼ ン	23,022	2,850	20,172	P P	99,630	14,642	84,988
ト ル エ ン	19,239	2	19,237	P S (F S)	1,805	1,969	▲ 164
パ ラ キ シ レ ン	65,584	9,890	55,694	P S (G P ・ H I)	10,398	1,532	8,866
S M	9	5,642	▲ 5,633	A S	5,124	2,788	2,336
V C M	9,706	—	9,706	A B S	11,479	8,955	2,524
オ ク タ ノ ール	848	1,967	▲ 1,119	P V C	30,526	4,328	26,198
E G	2,485	5,246	▲ 2,761	ポリカーボネート	32,600	1,979	30,621
ア セ ト ン	9,466	95	9,371	S B R	8,533	12,501	▲ 3,968
酢 酸	50	7,341	▲ 7,291	B R	2,776	11,206	▲ 8,430

財務省の2020年4月主要化学品輸出入バランス

(▲は入超、数量t)

品 目	輸 出	輸 入	バランス	品 目	輸 出	輸 入	バランス
エ チ レ ン	50,362	9,791	40,571	A N	10,855	1,546	9,309
プ ロ ピ レ ン	59,206	3,243	55,963	カ プ ロ ラ ク タ ム	9,372	—	9,372
シ ク ロ ヘ キ サ ン	198	—	198	低 密 度 P E	25,360	26,860	▲ 1,500
ベ ン ゼ ン	38,679	2,871	35,809	高 密 度 P E	13,633	15,051	▲ 1,418
ト ル エ ン	28,701	971	27,730	E V A	7,030	289	6,742
パ ラ キ シ レ ン	181,335	5,192	176,143	P P	39,337	28,070	11,267
S M	51,165	—	51,165	P S (F S)	1,339	893	447
E D C	19	6,042	▲ 6,023	P S (G P ・ H I)	8,752	397	8,354
V C M	64,084	—	64,084	P V C	32,689	411	32,278
メ タ ノ ー ル	6	131,091	▲ 131,086	A S	2,284	380	1,904
E G	24,453	108	24,345	A B S	6,328	4,315	2,013
フ ェ ノ ー ル	2,994	10,998	▲ 8,003	P O M	3,994	2,928	1,067
ア セ ト ン	1,892	268	1,624	ポ リ カ ー ボ ネ ー ト	13,416	6,656	6,761
M E K	8,348	—	8,348	ポ リ ア ミ ド (粉)	5,506	10,781	▲ 5,275
酢 酸	2,040	2,597	▲ 557	P E T	13,094	91,737	▲ 78,643
アクリル酸エステル	2,721	4,564	▲ 1,843	S B R (ソ リ ッ ド)	8,745	4,337	4,408
M M A モ ノ マ ー	11,661	932	10,728	B R	6,746	1,928	4,818
D O P	443	616	▲ 173	I I R	544	269	274
無 水 フ タ ル 酸	3,761	—	3,761	C R (ソ リ ッ ド)	5,972	42	5,930
テレフタル酸ジメチル	—	2,458	▲ 2,458	N B R (ソ リ ッ ド)	4,314	483	3,831

※「—」は実績なし

※低密度PEには、L-Lおよびエチレン-アルファ-オレフィン共重合体を含む